

地域推薦枠医学生 夏季離島実習 前半 事後レポート

今回、夏季離島実習に参加させてもらい、私は奄美の瀬戸内へき地診療所、大島県立病院で実習をした。これまで一度も離島に行ったことはなく、島の様子、医療の現状など人から話を聞いたり調べたりして知っているだけで、本当に理解しているとは言えなかった。そのため、今回離島へ行き、実際に自分で島の自然に触れたり住民と接したり、知念先生の診察の様子など見せてもらったりすることで、まだまだ足りないけど、たくさんのことを学ぶことができた。奄美大島は想像以上にお年寄りの方が多かった。病気になっていても自分で病院に行くことができないため、医師が患者の自宅へ行き診察する訪問診療にも同行させていただいた。自宅に着くと患者さんやその家族の方に、変わったことはないか、心配なことはないか、薬はちゃんと飲んでいるかなど会話をしながら診察をしていた。その過程で、ヘルスマネージャーの存在を初めて知った。日頃から患者さんの家へ行き、薬の管理をしたり、血圧の管理をしたり、その患者さんの健康を日々チェックしているそうだ。医師が訪問に行くと、そのヘルスマネージャーの方から日頃の様子を聞いたり、今後のことを伝えたりした。こういう人たちとの連携、患者さんや家族とのコミュニケーションが欠かせないと先生がおっしゃっていたが、診察の様子を見たり、実際に患者さんと会話したりしてみて、ひしひしとその大切さを感じた。実際に島の住民の方々と会話をしてみて、言葉がなかなか聞き取れなかったり、聞こえなかったり、方言がわからなかったり、逆に自分の話す声が小さくて相手の方に聞こえずに会話が成り立たないことなどがしばしばあった。私はあまり鹿児島弁に慣れていないが、今後へき地、離島で働いていくうえで、患者さんとのコミュニケーションは絶対に欠かせないものであり、方言で話す患者さんの話を聞き取らなくてはならないし、また、自分も方言で地域の方や患者さんと話す方が、より相手に寄り添ったコミュニケーションをとることができるのではないかと考える。そのためには、日頃から方言に触れて、実際に自分でも使っていくことが必要だと思った。

～俳句～波に揺れ 溢れる思い 待つほうへ

～背景～瀬戸内町から与路島へ船で巡回診療に行った時の想いを詠んだ。診療所に着くと既に沢山の住民の方が集まっていて、待合室では周りの人と、診察室では先生や看護師の方と、尽きることなく話をしていた。月に二回のこの診察を待ち望んでいる沢山の人がいるからこそ、長い時間をかけてでも巡回診療に向かう先生方の想いがあるのだなと思ってこの歌を詠んだ。

H29年 夏季離島実習 奄美大島瀬戸内コース レポート

今回は2度目の夏季実習だったが、去年は南さつま市コースで離島ではなかったので、へき地と離島とで医療にどのような違いや特色がみられるかを目的の1つにして参加させていただいた。行きはフェリーでの移動で、フェリー内で自治医大の学生とも仲良くなることができた。船が揺れて全く寝付けなかったので寝ていない状態での実習は不安だったが、瀬戸内町までの移動も楽しくてにぎやかだったので眠気も冷めてよかった。

瀬戸内町役場に到着してから、役場の方に「高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業」や「元気高齢者得トクポイント」についての説明をしていただいた。この活動の特徴は、活動を行うごとにグループや教室の参加者へポイントが付与され、ポイントが一定数たまると商店街で使える商品券に交換できるということだ。町の活性化、高齢者の健康維持など、この制度が存在することで町ぐるみで活動が行われていて良い制度だなと感じた。体操教室に町の皆さんと一緒に参加して1日目は終了し、夜はへき地診療所の知念先生、八代先生や職員の方々に歓迎していただいて夕食をご一緒した。とても楽しく過ごさせていただいた。

2日目は知念先生に付いて巡回診療、訪問診療の見学をさせていただいた。巡回診療は与路島で、他の島へ移動があるとは思っていなくて驚いたがとてもいい経験になり、船での移動も去年の坊津の実習ではなかったので、離島医療の特徴であると感じた。与路へき地診療所では島民の方々からたくさんお話を聞いて、島の暮らしや医療について知ることができた。移動は片道1時間ほどかかり、波も高くて大変で、この巡回診療を2週間に1回行う知念先生や八代先生はすごいなと感じた。与路島から戻ってまたすぐに車で町内の訪問診療を見学させていただいて、実際に患者さんの聴診もさせていただいて、2日目は中身の濃い充実した一日だったと思う。

3日目は午前中、へき地診療所の外来の見学だった。胃カメラの見学もさせていただいた。患者さんが少なく時間的に余裕があったので、先生のお話も聞くことができよかった。瀬戸内町での実習はこれが最後だったが、病院の皆さんや役場の皆さんにとってもよくしていただいて、充実させることができた。夕方からは県立大島病院へ移動して、救急の見学をさせていただいた。実際に患者さんが搬送されてくるのを間近で見ることができて貴重な経験になった。

4日目は午前中に名瀬保健所で講義を受けた後、ハブの見学を行った。奄美地域についてさらに詳しく知ることができ良かった。そのあとは住用のマングローブ林でカヌー体験をした。奄美の特色ある自然を満喫できた。

この実習を通して、去年坊津では経験できなかった船での移動など、地域医療の様々なかたちを実際に経験することができた。またこれからの自分の学びにつなげていきたい。

瀬戸内の 皆の想いで 巡る船

地域のみんなの支えの上に離島医療が成り立っていることを感じて詠みました。